

# 2024(令和6)年度 学校評価【自己評価】

2025(令和7)年8月7日

ECC学園高等学校

学校自己評価委員会

教育理念	自ら学び、自ら考え、自らの判断で行動し、世界で活躍できる人物を育成する	評価基準(A~D) A 達成できている B 概ね達成できている C あまり達成できていない D 達成できていない
目標(テーマ)	・ECC学園高校だからできる教育・(生徒自身が)できたと思える教育を実践する ・学ぶ楽しさを知り、自ら学び、自ら学ぶ姿勢を身につけさせる ・目標(進路)を実現するための教育の提供を行う	

評価項目	具体的評価項目	評価	評価理由・内容	改善点・方針	
1 教育活動	学力の向上	B	レポートの出題構成について2025年1月の文科省点検調査で改善項目として記述問題の分量的な指摘を受けた。難易度は教科書ベースであり概ねよいといえる。添削指導及びその評価は、各教科の教員免許状を有する実施校の教員が行っており、計画的な採点と返却を実施している。	レポートについては、指摘項目を改善するよう各科目において、2025年度は研究・準備期間とし、2026年度の教科書改訂に合わせて変更を実施する。具体的には、記述問題の増問、客観式を採点限とし短答式への変更を行う。	
		B	スクーリング(面接指導)が生徒の学習成果(興味・意欲・関心)につながる内容になっている。また、各科目担当が生徒が主体的に取り組めるよう創意工夫を行った授業を展開している。	各科目において授業の創意工夫は行えているが、「こういう力を育成したい」ということが体系的ではない。全体で共有し各科目に落とし込んでいくうえで定期での教務研修・会議を計画する。	
		B	試験は生徒の日頃の学習の習熟度を測る内容で構成されている。	試験時間と問題構成について、レポートの変更と合わせて2026年度より変更を行う。	
	質の確保	B	教育課程は学習指導要領や本校の目標に則っており、キャリア教育を意識した編成や考え方について、教員間で共有・理解をしている。	教育課程は学習指導要領や本校の目標に則っており、キャリア(進路)教育を柱にすることを、教員間で共有している。	非常勤を含めた全教員への共有としては100%とはいえない。周知する機会の確保が必要である。
		A	通信教育実施計画を作成し、レポート、スクーリング、(放送視聴)、試験を適切に実施している。	通信教育実施計画は各教科の教員免許状を有する教員が作成し、公開している。また、計画に則り適切に学習活動を実施している。スクーリングおよび試験は恒常的に高島市内の公共施設を利用していたが、後期より学則に記載の面接指導等実施施設で実施するように改めた。	通信教育実施計画についての研究と改訂は年次で実施する。2025年度からはこれまでとは異なる学校設定科目を開講するため、通信教育実施計画は適宜修正を行う。
		A	生徒の学力・状況など、個々に応じた支援・指導を教職員で情報共有し行っている。ADHD・LDなど(診断有無関係なく)個々に必要な合理的配慮に努めている。	生徒の学力・状況など、個々に応じた支援・指導を教職員で情報共有し行っている。ADHD・LDなど(診断有無関係なく)個々に必要な合理的配慮に努めている。	改善点は特になし。入学時の説明、書類提出・回収・確認を徹底する。
2 生徒指導	生活指導	B	学校として対面のほかオンラインや連絡アプリを活用し、予防(落単や通学意欲低下)も含めた一人一人の生徒の指導・支援を行っている。	特に通信スタイルの生徒に対する指導・支援を強化する。ハンドブックを作成し、生徒および教職員の共通認識とする。	
		A	三者面談や保護者会は計画的に実施し連携は行っている。またカウンセラーとは情報交換を密にしている。また、地域(行政・福祉)とも定期的な連絡を行い相互に生徒理解を行っている。	「普段の様子」を保護者等に発信する機会が以前と比較して減少しているため、SNS等を活用する。	
	進路指導	C	卒業生99名のうち41%が「その他」の進路となっており、卒業後の進路での自立を目標として実践している結果としては未達である。	進路指導を体系的に実施するため、進路会議を立ち上げる。特に、通信スタイルの生徒に対する指導・支援を強化する。	
		C	外部組織(大学・専門学校・進学/就職事業者)と協力しながら適切な進路選択と進路実現につなげる情報提供・支援を行っている。	継続的な進路活動を1年次後期に、より見える化が必要である。次年度以降は学園内進学を体系的に実施する。	

3 学校運営	経営方針	学校のビジョンと目標を明確にし、経営方針が教職員へ浸透している。	A	全体として3月の運営方針発表、8月の中間報告、年2回の目標管理面談、毎月の運営会議にて職員中心に周知している。	専任教員、非常勤教員ともビジョンと目標を明確にし、共通意識のもと学校運営を行う。
		財務、収支状況に関して理解している。	B	財務、収支状況は職員(責任者レベル)中心に周知している。	株立時からの変更点に関しての理解の精度をあげる。数値意識をもって職務を行う。
	教職員関係	分掌や体制が適切に機能するなど、運営組織・責任体制が整備されている。	C	移行期ということもあり、学校運営に支障は出していないが、運営組織・責任体制は煩雑である。	関係法令に則った体制を維持しながら、校務の分担を行う。校務分掌を明確にして教職協働の体制を整えていく。
		各校間、教職員間において共通認識・理解のもと、信頼関係が構築され、教育活動が実践されている。	B	実施校教職員が面接等指導施設、学習等支援施設の教職員であるため、生徒情報は非常勤講師も含め密に共有し、教育活動に生かしている。	生徒増への対応を検討し、教職員間で一貫した指導を行えるよう、情報共有・協議を行う会議の方法、内容をブラッシュアップしていく。
	渉外活動	オープンハイスクールや個別相談会の実施やWEB、学校案内など質量共に適切な広報を行っている。	A	通学圏内の中学校への学校案内・チラシ送付、HPやSNSを活用で、新入学に比重を置いた広報を行っている。昨年までできなかった中学校への情報提供を強化している。	新入学について新たな教育活動を広報へ反映していく。新入学へ比重を置きつつも転入学へのアプローチを見直し適切な広報を行う。
		各事業者や行政などと連携した活動を行っている。	A	各事業者においてはポータルサイトや合同相談会を利用しながら、他校や最新の情報交換を行い、広報および教育活動につなげている。	中学校や行政(県)との連携を教育活動に展開していく。
4 環境整備	施設・設備	学校施設や設備は高等学校通信教育規程に則った環境が整備されている。	B	関係法令に則して、教室・職員室・図書室・保健室・体育施設(運動場)その他の教育活動に必要な施設を整備しており、面接指導等実施施設についてもこれに準じて設定している。	高島本校の普通教室を拡張。体育や一部科目を除き、高島本校または大阪梅田キャンパス(面接指導等実施施設)にて教育活動を実施する。
		ICT活用のために十分な環境が整備され、教育活動が実施されている。	B	端末の導入はコース限定になっている。また使用コースにおいても最低限の活用になっている。	利便性の向上と学習指導要領に則った教育活動のバランスを考慮しながら、更なるICT活用に努める。
	危機管理 安全対策	学校保健安全法に則り、諸活動が実施されている。	B	「学校保健計画」「学校安全計画」の整備を行い、健康診断は学校主体として実施している。	教育活動としての周知や地域公共機関との連携の充実を図る。
5 連携	保護者連携	面談や保護者会など情報交換・提供の機会を定期的に設け連携を行っている。	A	三者面談や保護者会は計画的に実施し情報交換・提供の機会を定期的に設けている。また電話等を通じ、気になる状況は迅速に保護者に伝達・確認を行っている。	アプリを活用して学校からの案内の頻度を上げる。保護者会や三者面談においてはオンラインを活用していく。
	地域連携	地域活動への参加やイベントへの協力(経済的貢献)で、連携を行っている。	B	スクーリングにおいて地域学習や環境学習などを取り入れている。	地域学習や特別活動において地域活動への参加やイベント協力の充実を図る。
	学校法人 (学園)内連携	専門学校高等部との連携を深め、通信制高校としての在り方や生徒指導に関して情報交換を行い、よりよい学校づくりを実践している。	B	担当者間による生徒情報を中心とした情報交換を定期的実施。20名が各専門学校高等部から学園高校のみの在籍となり、法人内で進路変更に対応している。内部進学をしない生徒の進路指導も行っている。	法人内の完全退学を防止と内部進学をしない生徒の進路支援を連携して行う。学園内進学につなげるための指導を構築する。